

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	平成28年10月22日	評価結果市町村受理日	平成29年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200343-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「天の花」では、医療と介護の専門職員が力を発揮し、皆様の笑顔が見られるよう日々努力しています。 家庭的で暖かい雰囲気と職員の素敵な笑顔が特徴です。また、看護師も常駐し、在宅医療の専門医が往診 に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。 住み慣れた地域の中で、心豊かに安らかに、その人らしい生活を支援させて頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりの生活習慣や生活リズムを大切にして暮らせるよう、職員は「顔を見て笑顔で挨拶しよう」とその人らしく生きることを支援している。癌末期の人に好きなメロンパンを食べてもらったり、夕食時にお酒を飲んだりする希望も聞いている。医療法人の母体の方針を受け継ぎ、24時間医療・介護の連携が強く安心できる体制にしている。重度化し医療処置が必要になっても、本人や家族の意向を尊重し、医師と話し合いながら最期まで過ごすことができるようにしている。ボランティアや住民との交流も大切にして、事業所に餅つきやイベントに招待するなどして、地域とのつながりが深まるよう努めている。中庭では兎・亀・アヒルを飼い、施設内では犬も飼い利用者の癒しにつなぐケアを提供している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の引継ぎや申し送り、各カンファレンス・会議の際に触れ、職員に話し、理念を毎日唱和し振り返ることで全体意識を高め、実践に努めています	理念を基に「顔を見て挨拶しよう」など具体的な目標を立てて実践している。施設長は、職員が「笑顔で温かい言葉をかけているか」を確認し、常に全員で振り返りながら、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流が定期的に図られるようになる。地域の行事や活動(祭り、餅つき、清掃)への参加。また、地域住民のボランティアの受入や保育園・小・中学校との交流に努めている。(地元業者との関わりも大切にしています)	日頃から買い物は地元を使い、利用者と住民との交流が増え、地域とのつながりが深まるようにしている。小中学生の福祉体験学習で高齢者や認知症の人との関り方の質問があり、学校へ話に出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、簡単な認知症の勉強会や現場での支援のことを伝えていきます。また、天の花として「何ができるのか」「高齢化する地域の課題」など一緒に考え、いつでも相談できる関係性を構築するように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の支援内容をはじめ、事業所での現状報告、訓練の反省、感染症予防、制度改正や利用料金などさまざまなテーマについての報告や話し合いを実施。施設内・外の研修での学びも報告しています。	自治会長から社会福祉協議会の行事情報を得て、地域には独居高齢者や認知症の人が多く意見を頂き出向いて対応している。委員が参加しやすい日曜日に開催し、次回の予定日を知らせ協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市町村に相談・助言を受けながら適正な事業運営を行っています。また、空室状況などの報告も密に行い市町村との連携、顔の見える関係が図られています。	施設長は「便り」配布や書類手続き時等に市に出向き、事業所の実情を伝えている。市主催の会議時に情報交換をして、認知症サポーター養成講座や認知症カフェ開設の相談に出かけ準備をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修参加や勉強会を実施し周知を図るように心掛けています。身体的拘束だけでなく、言葉による虐待(スピーチロック)など、精神的な抑制もしないように学びを深め、気づきを共有しながら取り組んでいます。	利用者の状態により夜間4点柵をする時は、家族に時間・期間限定を説明し同意を得ている。玄関は施錠しているが、利用者は自分で鍵を開けて外出できる為、職員は見守りしながら同行している。鍵をかけない方法や時間を職員で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	アクシデント報告に基づく事例・抑制の必要性などを検討する。日頃から入浴や更衣時などに皮膚の観察・変化などを確認し防止に努めている。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に関しては、管理者とケアマネジャーのみの研修にとどまっているため今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては、十分な説明と同意を図っています。施設として「できること」「できないこと」を明確に伝え施設の考え、方針についても、理解していただいた上での契約を実施。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、利用者家族にアンケートを配布し、意見・不満・苦情などだしてもらい、課題として取り上げ、問題・課題の対応や解決策を検討しています。 改善事項に関しては、職員と情報共有し統一を図っています。	家族の来訪時に意見を聞いたり、電話やメールで状況報告したりして意見や希望を聞いている。家族アンケートから出た意見は返答し運営推進会議で報告している。夜間空腹時対応の意見に職員と話し合い応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体カンファレンス会議・各会議で意見や提案を必ず聞く機会を設けています。 意見・提案の経過報告は、検討の上、業務伝達にて申し送りをしています。また、職員アンケート・自己評価シートの配布を行い、その後面談を設けています。	職員アンケート・毎月の会議や職員が2・3人で行うミニカンファレンスで出た提案事項や意見を運営に活かしている。施設長は気になる職員には面談するなど、職員の体調や勤務状況にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状態の把握と個人面談の実施と元気がない職員には、積極的に声をかけている。 時間外労働時間のチェックと把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、能力に沿った研修を促しています。法人内研修には、ほぼ全員参加し知識・技術の向上に努めています。 参加後、意見や感想を聞いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を始め、各競技会への参加や研修会などにより、様々な施設との交流があり、意見交換会の良い機会ができています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅に事前訪問へ伺わせて頂きます。生活環境や生活歴などの話をゆっくりと聞き、利用者の想いを傾聴させて頂きます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至るまでの相談・対応は、施設長にて対応させていただきます。 (希望があれば、電話の対応もしています。)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族を交えて話し合う機会を多く持ちお互いの意見や気持ちを聞くようにしています。 必要時、ケアマネジャーに相談しより良いサービスが提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達は、介護する側、される側の人間関係ではなく、「人」としてのあたたかな関わりを大切にしています。共同生活する中で家族に近い存在となり、安心感を抱いてもらえるような関わりができるよう努めていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で困ったことや今後の方針など介護職員のみで解決するのではなく、家族の方にも連絡をとりながら意見を聞いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から交友関係の継続(家族・かかりつけへの病院受診・床屋・美容院など、慣れ親しみのある場所)関係を大切にしています。	利用者の生活歴や関係性を把握し、友人と電話で話してもらったり、事業所に訪ねて来てもらったりしている。併設するデイサービスでの偶然の出会いも大切にし、来所をお願いし馴染みの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の席など関わりが上手くいくように、職員が会話の橋渡しをしたり、また、昔から他者との交流を望まれない方に対しては、間接的に関わり、他者との交流を図るようにしています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりサービスが中止された場合は、定期的なお見舞いに伺わせていただいております。 施設行事の案内やお便りなど配布して家族との関わりを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の声を大切に聞き取り、日々の中で変わる利用者を把握しながら希望や意向に沿えるよう出来る限り尊重させて頂くよう心掛けています。 担当者会議でケアプランの見直しを行う際は、「思い」を大切にしています。	利用者の思いや意向をゆっくり聞くことを基本にしている。利用者が発した言葉を記録に残し、職員で共有している。困難な人には、絵や図を描いた紙を使用し、うなずきや顔の表情で思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの本人の生活環境や生活歴などゆっくり伺いながら出来るだけ「想い」を大切にしています。居室なども馴染みの物を置き、環境の変化にも十分気を付けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムの把握と日々変化する身体状況を日頃のミニカンファレンスで話し合い、介護職を始め、各専門職との連携を図り、安心して生活できる支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のミニカンファレンスの実施と月に1回定期的にカンファレンスを行い、利用状況の把握やケアのあり方などについて話し合いを行います。 家族来所時には、ケアプランの説明の時に意見などを伺います。	毎月身体状況と気づきを基に評価し、翌月の方針を全職員で話し合っている。家族に希望を聞き医師の意見も参考に介護計画を作成している。日中・夜間と分けて、見やすくわかりやすいように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言葉をありのまま記録に残すようにしています。気づきを書き入れ、職員間での情報共有にも役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の出来ることに関しては、積極的に行ってもらおう。(本人に無理強いをしない程度の誘い) ニーズの中にリハビリを希望される方には、理学療法士より指導を受けた看護・介護士が生活リハビリに取り組んでいます。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティア支援を活用し社会交流が図られている。また、お千代稲荷参拝、左義長などの地域行事への参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、必要な時に必要な医療を受けることができるよう連携を図っている。	契約時に協力医に変更する利用者が多い。総合病院の受診時は、看護師が同行し書面や口頭で説明している。歯科医・歯科衛生士・訪問看護師とも連携し、適切な医療が受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排泄に関する心配なことやスキントラブルなど、細やかな観察で速やかに報告できるよう心掛ける。異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護情報提供を速やかに行い、ADL情報も伝えている。 退院時は、看護サマリーを依頼し、継続した支援ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取り体制の充実 ガン末期や心不全・肺炎などの終末期を安楽に過ごせるような支援に取り組んでいる。 かかりつけ医との連携や訪問看護師との援助の連携。	医療処置が必要な利用者も受け入れ、最期まで支援する方針である。医師が看取りの対応や延命について家族に説明し、職員や看護師とも情報を共有し支援している。看取り後はエンゼルケアを提供して、きれいに整えてから、他の利用者と一緒に玄関から見送りお別れしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などがあれば、すぐに救急要請を行い初期対応にあたっているが実際に現場で起きると大きな混乱を招くため、今後も研修や講習参加が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在の避難訓練実施が日中のみしか出来ていないため、今後は、夜間に訓練をしていくことが課題となっている。 また、水害に対する訓練も行うことが重要な課題である。	利用者と一緒に消火訓練や水害に備え2階に避難する訓練を実施している。実施後は、反省会で課題を話し合っている。年2回は実施しているが、夜間想定や住民の協力が得られていない。	いつ発生するかわからない様々な災害時に咄嗟の行動が落ち着いてできる訓練が望まれる。職員体制が手薄な夜間想定をし住民の協力も求めながら実施されるよう期待する。

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するように行動しているが排泄に関しては、やや尊厳に欠ける部分があるため、対応の見直しが必要。	職員は利用者その人を知り、生活歴を知ることと言葉かけや対応を工夫している。排泄誘導時はトーンや語尾を上げないよう心がけ、利用者に合わせさりげなく声かけしている。顔写真等の扱いにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な意見を言い合えるような環境づくりを心掛けている。 飲み物は、好みのものを提供する。おやつバイキングでは、好きなものを選ぶように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員側のペースで動きがちであるその人の希望にそった支援としては課題が残る		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整髪や洗顔、温かいタオルでの顔拭きなどは支援できているが、その人らしい支援では、まだまだ工夫・改善していく必要がある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁をよそう、お粥をいれる、野菜の皮むきや果物の皮むき、下膳などその人の力を活かした関わりはできている	季節のメニューや希望の食材を献立に取り入れている。梅酒や干し柿作り等利用者ができる事を一緒に行っている。車イスの人と一緒に食卓につき食事をしているが、職員は忙しいためか落ち着かず、楽しむ雰囲気損なわれている。	食事は職員とのコミュニケーションの時間でもあり、ゆったりと利用者のペースに合わせ、楽しい食事時間となる工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認・水分補給の有無(量)好みの飲み物など、記録を通じて記載している必要に応じてカロリー補給の飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回の口腔ケアでまずは本人に磨いてもらい、そのあとに磨き残しがないかを確認している 義歯の管理や手入れも行っている		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に合ったオムツ・リハビリパンツなどの選定を行い定期的に評価している 1回の失禁などですぐにオムツに変えたりしないよう心掛けている	排泄習慣を把握しトイレ誘導にて自立に向けた支援をしている。立位が困難な人には職員が二人介助でトイレにて排泄している。パルーンを外し定期的に便器に座ることで尿意が戻り、トイレ排泄ができた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分不足か？腰痛などがないか？をカンファレンスで話し合い状態に応じた対応を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方に関しては気分の良い時や調子のよい時にお声かけて入って頂くような関わりをしているが、やはり業務優先になってしまうことが多い	温泉を引き込み楽しんでいる。季節の柚子湯・体調にて部分浴・清拭にしたりしている。湯温・順番や同性介助にも配慮している。弱酸性洗剤の使用や泡洗剤にて皮膚への刺激にも注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	まずは情報提供から本人の生活習慣を把握し、本人の睡眠パターンを知るようにしている 日々の暮らしの中で必要な休息はとってもらうよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を見るようにしているが最近ジェネリック薬品が多く覚えることが難しい		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に梅酒を作って飲み頃を楽しみに会話したり夜の晩酌に少量のお酒を飲んでもらっている 今までの生活習慣や楽しみにされていたことをなるべく大切にすることに関わっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりの希望に沿った外出支援はなかなか出来ない、個人的な外出支援になると、職員も実際には行動できないことが多い	希望を聞いてお千代保稲荷・花見・道の駅などに出かけている。近くのコンビニや和菓子店などの買い物にも車イスの人も一緒に行っている。中庭の兎や亀を眺めたり、玄関先で外気に触れる時もある。家族の協力で自宅や喫茶店に行く人もいる。	

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を管理できる人はおらず、ご家人も金銭は持たさないでほしいという希望があり、現在は実現できていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる利用者は1名 電話をかける・電話をとることはできるが、携帯電話を充電することが出来ない 現状はご家族共有している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、風鈴、木の実、果物などをテーブルに置いて季節を感じて頂くよう工夫している	玄関は職員手作りのリースや飾り物でその時期の季節感をかもし出している。居間には自由に座れるソファを置き、TVを見たり新聞を読んだり、利用者同士が会話したり居心地良く過ごせるようにしている。加湿器や空気清浄機で室内環境にも注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によっては、リビングで一人になれ、新聞を読んだり好きなテレビを見ることが出来る 一人コーヒータイムを楽しんで頂くことも可能		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みが少ない方はやはり居室空間が殺風景である ご家族と相談しながらどんどん好みの居室を作っていくことが大切⇒今後の課題	TV・位牌・経本・家族写真・化粧品等を置き、その人らしい居室にしている。使い慣れたトレーニングマシンやゲーム用吹き矢を持参している人もいる。居室は木材の温かさが感じられるよう家具の配置を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは積極的に行ってもらっているが、その際にはきちんとご家族にも良い面とリスクを伝えるようにしている 自立支援を勧めるにあたり、必ずリスクも伝えて説明しておくことが必要となってくる		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム 天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461		
自己評価作成日	平成28年10月21日	評価結果市町村受理日	平成29年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172200343-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「天の花」では、医療と介護の専門職員が力を発揮し、皆様の笑顔が見られるよう日々努力しています。 家庭的で暖かい雰囲気と職員の素敵な笑顔が特徴です。また、看護師も常駐し、在宅医療の専門医が往診 に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。 住み慣れた地域の中で、心豊かに安らかに、その人らしい生活を支援させて頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の引継ぎや申し送り、各カンファレンス・会議の際に触れ、職員に話し、理念を毎日唱和し振り返ることで全体意識を高め、実践に努めています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流が定期的に図られるようになる。地域の行事や活動(祭り、餅つき、清掃)への参加。また、地域住民のボランティアの受入や保育園・小・中学校との交流に努めている。(地元業者との関わりも大切にしています)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、簡単な認知症の勉強会や現場での支援のことを伝えていきます。また、天の花として「何ができるのか」「高齢化する地域の課題」など一緒に考え、いつでも相談できる関係性を構築すように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の支援内容をはじめ、事業所での現状報告、訓練の反省、感染症予防、制度改正や利用料金などさまざまなテーマについての報告や話し合いを実施。施設内・外の研修での学びも報告しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市町村に相談・助言を受けながら適正な事業運営を行っています。また、空室状況などの報告も密に行い市町村との連携、顔の見える関係が図られています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修参加や勉強会を実施し周知を図るように心掛けています。身体的拘束だけでなく、言葉による虐待(スピーチロック)など、精神的な抑制もしないように学びを深め、気づきを共有しながら取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	アクシデント報告に基づく事例・抑制の必要性などを検討する。日頃から入浴や更衣時などに皮膚の観察・変化などを確認し防止に努めている。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に関しては、管理者とケアマネジャーのみの研修にとどまっているため今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては、十分な説明と同意を図っています。施設として「できること」「できないこと」を明確に伝え施設の考え、方針についても、理解していただいた上での契約を実施。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、利用者家族にアンケートを配布し、意見・不満・苦情などだしてもらい、課題として取り上げ、問題・課題の対応や解決策を検討しています。 改善事項に関しては、職員と情報共有し統一を図っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体カンファレンス会議・各会議で意見や提案を必ず聞く機会を設けています。 意見・提案の経過報告は、検討の上、業務伝達にて申し送りをしています。また、職員アンケート・自己評価シートの配布を行い、その後面談を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状態の把握と個人面談の実施と元気がない職員には、積極的に声をかけている。 時間外労働時間のチェックと把握に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、能力に沿った研修を促しています。法人内研修には、ほぼ全員参加し知識・技術の向上に努めています。 参加後、意見や感想を聞いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を始め、各競技会への参加や研修会などにより、様々な施設との交流があり、意見交換会の良い機会ができています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅に事前訪問へ伺わせて頂きます。生活環境や生活歴などの話をゆっくりと聞き、利用者の想いを傾聴させていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用に至るまでの相談・対応は、施設長にて対応させていただきます。 (希望があれば、電話の対応もしています。)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族を交えて話し合う機会を多く持ちお互いの意見や気持ちを聞くようにしています。 必要時、ケアマネジャーに相談しより良いサービスが提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達は、介護する側、される側の人間関係ではなく、「人」としてのあたたかな関わりを大切にしています。共同生活する中で家族に近い存在となり、安心感を抱いてもらえるような関わりができるよう努めていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で困ったことや今後の方針など介護職員のみで解決するのではなく、家族の方にも連絡をとりながら意見を聞いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から交友関係の継続(家族・かかりつけへの病院受診・や床屋・美容院など、慣れ親みのある場所、関係を大切にしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の席など関わりが上手くいくように、職員が会話の橋渡しをしたり、また、昔から他者との交流を望まれない方に対しては、間接的に関わり他者との交流を図るようにしています。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりサービスが中止された場合は、定期的なお見舞いに伺わせていただいております。 施設行事の案内やお便りなど配布して家族との関わりを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の声を大切に聞き取り、日々の中で変わる利用者を把握しながら希望や意向に沿えるよう出来る限り尊重させて頂くよう心掛けています。 担当者会議でケアプランの見直しを行う際は、「思い」を大切にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの本人の生活環境や生活歴などゆっくり伺いながら出来るだけ「想い」を大切にしています。居室なども馴染みの物を置き、環境の変化にも十分気を付けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムの把握と日々変化する身体状況を日頃のミニカンファレンスで話し合い、介護職を始め、各専門職との連携を図り、安心して生活できる支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のミニカンファレンスの実施と月に1回定期的にカンファレンスを行い、利用状況の把握やケアのあり方などについて話し合いを行います。 家族来所時には、ケアプランの説明の時に意見などを伺います。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の言葉をありのまま記録に残すようにしています。気づきを書き入れ、職員間で情報共有にも役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の出来ることに関しては、積極的に行ってもらおう。(本人に無理強いをしない程度の誘い) ニーズの中にリハビリを希望される方には、理学療法士より指導を受けた看護・介護士が生活リハビリに取り組んでいます。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティア支援を活用し社会交流が図られている。また、お千代稲荷参拝、左義長などの地域行事への参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、必要な時に必要な医療を受けることができるよう連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排泄に関する心配なことやスキントラブルなど、細やかな観察で速やかに報告できるよう心掛ける。 異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護情報提供を速やかに行い、ADL情報も伝えている。 退院時は、看護サマリーを依頼し、継続した支援ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取り体制の充実 ガン末期や心不全・肺炎などの終末期を安楽に過ごせるような支援に取り組んでいる。 かかりつけ医との連携や訪問看護師との援助の連携。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などがあれば、すぐに救急要請を行い初期対応にあたっているが実際に現場で起きると大きな混乱を招くため、今後も研修や講習参加が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在の避難訓練実施が日中のみしか出来ていないため、今後は、夜間に訓練をしていくことが課題となっている。 また、水害に対する訓練も行うことが重要な課題である。		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊厳するように行動しているが排泄に関しては、やや尊厳に欠ける部分があるため、対応の見直しが必要。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な意見を言い合えるような環境づくりを心掛けている。 飲み物は、好みのものを提供する。おやつバイキングでは、好きなものを選ぶように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員側のペースで動きがちであるその人の希望にそった支援としては課題が残る		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整髪や洗顔、温かいタオルでの顔拭きなどは支援できているが、その人らしい支援では、まだまだ工夫・改善していく必要がある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁をよそう、お粥をいれる、野菜の皮むきや果物の皮むき、下膳などその人の力を活かした関わりはできている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認・水分補給の有無(量)好みの飲み物など、記録を通じて記載している必要に応じてカロリー補給の飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回の口腔ケアでまずは本人に磨いてもらい、そのあとに磨き残しがないかを確認している 義歯の管理や手入れも行っている		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人に合ったオムツ・リハビリパンツなどの選定を行い定期的に評価している 1回の失禁などですぐにオムツに変えたりしないよう心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し、水分不足か？腰痛などがないか？をカンファレンスで話し合い状態に応じた対応を心掛けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方に関しては気分の良い時や調子のよい時にお声かけして入って頂くような関わりをしているが、やはり業務優先になってしまうことが多い		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	まずは情報提供から本人の生活習慣を把握し、本人の睡眠パターンを知るようにしている 日々の暮らしの中で必要な休息はとってもらうよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を見るようにしているが最近ジェネリック薬品が多く覚えることが難しい また、詳しい機序を把握することは困難		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に梅酒を作って飲み頃を楽しみに会話したり夜の晩酌に少量のお酒を飲んでもらっている 今までの生活習慣や楽しみにされていたことをなるべく大切にすることに関わっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとりひとりの希望に沿った外出支援はなかなか出来ていない、個人的な外出支援になると、職員も実際には行動できないことが多い		

グループホーム 天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を管理できる人はおらず、ご家人も金銭は持たさないでほしいという希望があり、現在は実現できていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる利用者は1名 電話をかける・電話をとることはできるが、携帯電話を充電することが出来ない 現状はご家族共有している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、風鈴、木の実、果物などをテーブルに置いて季節を感じて頂くよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間帯によっては、リビングで一人になれ、新聞を読んだり好きなテレビを見ることが出来る 一人コーヒータイムを楽しんで頂くことも可能		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みが少ない方はやはり居室空間が殺風景である ご家族と相談しながらどんどん好みの居室を作っていくことが大切⇒今後の課題		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは積極的に行ってもらっているが、その際にはきちんとご家族にも良い面とリスクを伝えるようにしている 自立支援を勧めるにあたり、必ずリスクも伝えて説明しておくことが必要となってくる		